

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成28年12月
福島県 泉崎村

3)その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)

	指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
		基準年度		目標年度		確認年度						
目標1	さつき公園施設の利用数	65,117	H25	70,000	H27	77,012(H27年度最新データ)	H28	244%	さつき公園施設利用者数総括表	公園の整備により施設の充実が図られ、外遊びのが確保されたことにより子供連れの家族が多く見受けられた、	公園児童運動公園広場の芝生を刈るなどし、利用者が安心して利用できるよう適正な維持管理を行い、利用促進を図る。	C-1-1
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画上全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1.B-1.2.C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2.C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25年度	交付対象事業費	27,825千円
市町村名	泉崎村	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

地域の中の幼稚園として活用するため、泉崎幼稚園の遊具を更新することにより、幼稚園児の外遊びの機会の増加を図る。



【事業詳細】

(1) 事業概要

泉崎幼稚園の遊具を更新することにより、幼稚園児の外遊びの機会の増加を図る。
 泉崎村には保育所が1か所と幼稚園が1か所存在する。幼稚園では、午後の預かり保育を実施しているため、保育所に入所していた児童が3歳になると保育に欠ける児童でも保育所に入所せず、幼稚園に入園する。平成25年4月1日現在泉崎村に住所を有する3歳児64人中62人、4歳児63人中62人、5歳児67人中65人が幼稚園に入園している。入園率は、98.5%(191/194)である。就学前に児童がほとんど入園している幼稚園であるので、幼稚園の遊具を更新することにより、村内のほとんどの就学前3か年の児童が外遊びの機会を増加させることになるため、幼稚園の遊具を更新する。

(2) 事業の実施状況

平成26年3月20日竣工、4月2日竣工式を開催。更新した遊具は、複合遊具やジャングルジム、ブランコ、滑り台など21基。保育時間内は、外遊びの時間及び毎日昼食後の自由時間に自由遊びとして利用、また、遊具遊び指導としてアスレチックトレーナーの指導を受けた。休園の時は、午前9時から午後4時まで一般に開放している。(広報紙に掲載)

(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障と評価年度時点の情報

○基本情報

平成22年10月1日現在の国政調査人口は、6,802人となっている。平成24年10月1日現在の避難者数は28人(全国避難者情報システム)であり、流出率は0.4%である。子どもを含めた人口の流出により、子どもが関係する行事の縮小や子育て世代を中心とした地域コミュニティの弱体化など、地域の復興への活力がそがれている。避難者が戻れる環境を作り、流出した子供たちが戻ることが地域の復興につながる。

幼稚園では、原発事故後外遊びを制限し、保護者への意見を聞きながら徐々に外遊びの機会を増やしているが、保護者からのアンケートにも遊具周辺の放射線の心配をしている回答が見られ、外遊びの機会が十分でない状態が続いている。

定期的に行う健康診断の結果からも肥満の傾向が見受けられる。平成23年4月に測定した年長児の肥満度と比較すると、平成25年4月に測定した年長児の肥満度は、男子で、0.95ポイント上昇、女子で、1.16ポイント上昇している。平成23年から平成24年度にかけて屋外の活動を制限している影響と思われる。

○評価年度時点の情報

平成28年4月1日現在の避難者数は28人、平成24年10月1日現在も28人(全国避難者情報システム)で増減なしの、流出率は0.4%であり、同率である。平成28年7月に測定した年長児の肥満度は、男子で、-0.81で平成23年度0.21から1.02ポイント改善したものの、女子は-2.79で平成23年度-2.95から、0.16ポイント上昇している。女子については、H26、27は、肥満度がプラスだったが、今年度はマイナスになり改善傾向にある。保護者向けのアンケートによると遊具遊びを好んでおり、遊具遊びにより運動量が増えたと83%の保護者が答えている。また、86%の保護者は遊具遊びは肥満解消に有効であると思っている。

(4) その他

休園時には、入口に「遊具開放中」のポスターを設置し休日の利用促進のPRに努めた。また、広報紙に掲載し広く広報(H26年7月号、H27年4月、H28年4月号にも掲載)を行った。平成26年度にはアスレチックトレーナーの指導により効率的な遊具利用についての指導会を年齢ごとに開催した。(ホームページでは、平成26年11月17日に掲載、広報紙には、H27年1月号に掲載) 休日開放について40%の保護者が開放していることを知らないと答えている。開放していることは知っている(60%)がその内1回も利用したことがないと答えた保護者は62%である。平成28年9月29日に有識者会議を開催した。会議の参加者は、幼稚園・小学校の園長校長・PTA会長、主任児童委員である。意見として①休日開放についてもっと積極的に広報すること。②施設を保育所や幼稚園等の年間行事に取り入れる。(児童公園) ③看板の設置が無いので場所が分かりにくい。(児童公園)



アスレチックトレーナーによる指導2014.11.11



遊具で遊ぶ園児2014.4.2



休日遊具開放表示2014.11.15

事業計画推進による効果・変化(注2)

○幼稚園の遊具更新を行ったことにより、年長児の肥満度は、男子で、1.02ポイント改善したものの、女子で、0.16ポイント上昇している。女子については、H26、27は、肥満度がプラスだったが、今年度はマイナスになり改善傾向にある。
 ○幼稚園保育時間内の自由遊び、及び退園時の際、更新した遊具等に群がる児童が多く、肥満度の低下につながっている。保護者向けのアンケートによると遊具遊びを好んでおり、遊具遊びにより運動量が増えたと83%の保護者が答えている。また、86%の保護者は遊具遊びは肥満解消に有効であると思っている。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○幼稚園事業として小学校との連携で体育教師による固定遊具のサーキット遊びメニュー作成を依頼し、そのメニューを元にした幼稚園教師による指導を行う。幼稚園教諭によるサーキット遊び指導を中心に行い、子ども達に様々な体の動かし方、遊ぶ楽しさを覚えさせ、もって、運動能力の向上を図る。

○泉崎幼稚園の遊具更新を実施したこと及び園庭を開放していることについて、広報紙(「広報いずみざき」各世帯配布)及びホームページにより周知を図ることで、休日の利用促進を図る。また、幼稚園からの幼稚園たよりを利用した休日開放の広報を行う。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

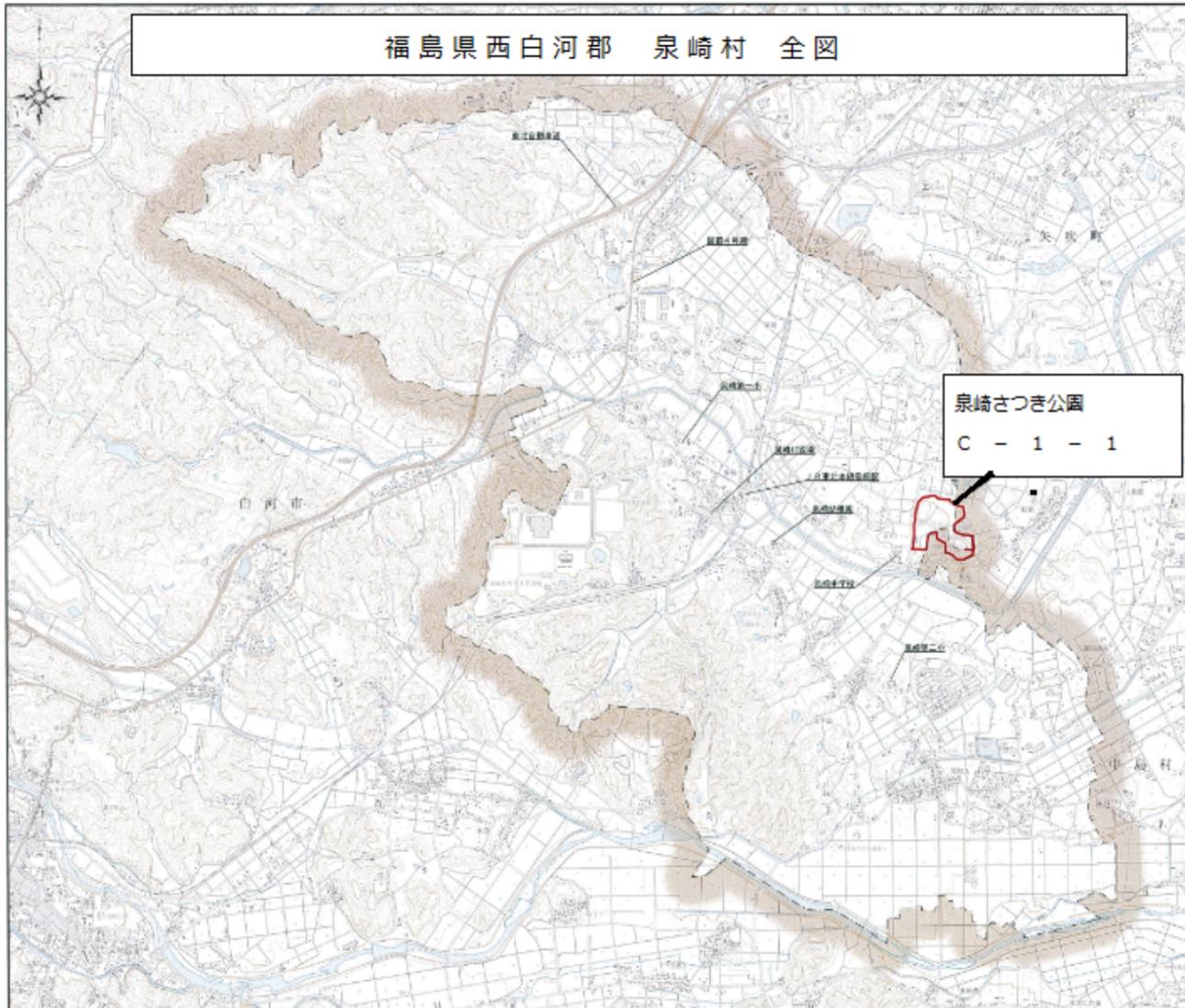
県名	福島県	交付期間	平成26年度～平成27年度	交付対象事業費	74,122千円
市町村名	泉崎村	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	C-1-1

1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

震災や原発事故の影響により屋外での運動制限による、体力の衰えや運動能力の低下がみられる子どもたちが安全で安心して屋外で遊べる環境を整備することにより、体を動かすことに喜びや楽しみを感じながら体力や運動能力の向上を図る。

【区域全体図】



【事業詳細】

- (1) 事業概要
 - ・村の東部に位置する白石山地内のさつき公園内に、子ども達が屋外で体力づくりやレクリエーション活動の出来る「児童運動公園」を整備し、原発事故後、屋外での活動が制限され体力の低下や、肥満傾向にある子どもたちの運動機会の増加を図る。
 - ・泉崎さつき公園・児童運動広場(整備面積2,300㎡)
 - ・設置遊具: 遊具スカイロープ、リンク式遊具2基、四連ブランコ、複合遊具(安全柵含)、うんてい 合計6基
 - ・附帯施設: 公衆トイレ、東屋、テーブルセット、照明灯
- (2) 事業の実施状況
 - ・実施場所 泉崎さつき公園
 - ・工事期間 平成26年10月24日～平成27年5月29日
 - ・供用開始 平成27年7月18日
 - ・平成28年12月1日現在のさつき運動公園利用者数 65,749人(平成23年度 11,374人 平成27年度 77,012人)
- (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障と評価年度時点の情報
 - ・避難者数 平成24年4月 27人 平成27年4月 28人 (+1人 +3.70%)
 - ・村内人口 平成24年4月 6,643人 平成27年4月 6,599人 (△44人 △0.66%)
 - ・小学4年生～小学6年生の体力測定平均点 平成24年度 53.83点 平成28年度 54.11点 (+0.28点)
 - ・小学生肥満度平均 平成25年度 2.20% 平成28年度 0.14% (△2.06ポイント)
 - ・泉崎さつき公園年間利用者数 平成25年度 65,117人 平成27年度 77,012人 (+11,895人)

避難者の帰村や人口減には今のところ効果はみられないが、さつき公園の施設が整備等により各施設の利用者の増加がみられ、運動する機会や外で遊ぶ機会を得たことにより体力テストや肥満傾向の直近の値で大きく改善し効果が表れている。
- (4) その他
 - 平成28年9月29日に有識者会議を開催した。会議の参加者は、幼稚園・小学校の園長校長・PTA会長、主任児童委員である。その結果、公園をインターネットや看板等により周知を図るとともに、公園を利用した学校行事を計画するなど学校との連携をし外での運動の機会を増やす等の意見があった。また、平成28年10月末現在で前年度同月よりも利用者が1000人程度多いことから、平成28年度は利用者増が見込まれる。



泉崎さつき公園児童運動広場 平成27年7月撮影

事業計画推進による効果・変化(注2)

小学生の肥満度は平成25年度と平成28年度を比較すると2.06ポイントの減と改善した。また、外遊びのが確保されたことにより子供連れの家族が多く見受けられ村外からの施設利用者の増加もみられた。このことにより、施設の利用者は平成25年度と平成27年度を比較すると18.26%の利用増となり効果がみられる。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

村の広報やHP等により施設の周知をし利用の促進に努めるとともに、適正な施設管理を行い利用者に安全で安心な運動の機会を提供することにより、全体的な効果が得られようとする。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。